

## <金標準、介入警戒感の中で円の独歩安を受けて高値更新なるか・・・>



(出所：オアシス)

日銀金融政策決定会合では国債の買入れ額を文言から削減し、金融引き締めの下地を作るも会合後に行われた植田日銀総裁の記者会見では、2024 年度物価見通しの上方修正に円安の影響が若干含まれるが「今のところ大きな影響を与えているということではない」と説明している。そのため円安が野放しの状態となり、NY 時間帯には 34 年ぶりの円安を更新し一時 158.44 円まで急速な円安の動きを見せている。

特にドル建ての NY 金は、円安・ドル高の悪影響を受けても中国人民銀行や中国人の逃避需要が根強く、2300 ドルを維持するなど下げ渋る動きを見せている。そのため円建て金標準先物は、ドル建ての下げ渋りと円安効果を受けて 4 月 19 日に付けた高値 11983 円に迫る 11900 円まで買われている。しかし急速な円安の動きは金融当局の介入警戒感も高まりを見せており、11983 円に近付くと利益確定に抑えられた値動きが強まると思われ、手放しで強気姿勢を続ける事も注意が必要と思われる。

### <テクニカル>

金標準先物の日足の MACD では、MACD は **MACD** が下げ渋り、**シグナル**は下げている。また RCI では**短期**が上昇し、**長期**は下げ止まるなどオシレーターは戻りを示唆している。ただ強気のクロスサインは示されていない事から高値警戒には備えるのが良いかと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,445,000 円(2024 年 4 月 30 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 76,560 円(2024 年 4 月 30 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>